



## 10年目を迎えた介護保険……見えてきた制度の問題点

介護保険は、だれもが平等に安心な老後を過ごせるようにとつくられた制度です。それまでの行政主導による措置制度としての介護支援から、利用者が事業者と契約してサービスを受ける利用者本位の制度になりました。いわば、契約による権利としての介護支援が実現されたはずなのですが、制度が始まって10年目を迎えた今、さまざまな問題点が見えてきました。

**介護報酬引き上げの目的** ここ数年、低賃金に苦しむ介護職員が現場から次々に去っていく事態がおき、大きな社会問題になっています。こうした状況を改善するため、国はようやくこの4月から事業所や施設に支払われる介護報酬を3%引き上げました。改定のねらいは、介護職員の待遇を改善して、人手不足を解消することにあるとされています。しかし、介護報酬がこれまでに2回で4.7%も引き下げられており、事業所には今回の報酬増額分を賃金に充てる義務がないことを考えると、介護職員の給与のアップにつながるかどうかは疑問の残るところです。

**八丈の場合は** 八丈町内には介護保険の事業所が4ヶ所ありますが、対応はそれぞれで異なり、たとえば養和会ではアルバイトの時給をあげ、社会福祉協議会（＝社協）では登録ヘルパーや入浴スタッフの手当てを上げることで、労働環境の改善をはかることになりました。しかし、こうした動きも、利用者にとっては必ずしもメリットがあるとはいえません。保険利用の増加と報酬アップは、利用料や保険料にはね返ってくるからです。また、介護認定の方法も変わり、介護度が軽く認定され期待したサービスが受けられなくなるという指摘もあります。

**町の課題** 八丈の場合、事業者が非営利団体であることや、介護職員に顔見知りが多いことなど、利用者が安心して利用できる状況があります。しかし、課題もあります。

- ① 一人暮らしの認知症の支援
- ② 訪問介護サービスにおける深夜のケアの問題
- ③ 医療と介護の連携の実現
- ④ 同居家族がいると生活援助が受けられない現状の改善
- ⑤ 養成したヘルパーの就業の促進
- ⑥ 入所待機者を減らす対策

制度そのものに問題点はあるにしても、保険主体である町が将来のビジョンを打ち出し事業所を支援する態勢をつくっていくべきだと思います。

一方、様々な独自のサービスを行ない、制度だけでは救えない部分を補っている事業所もあります。そのひとつが、社協が20年以上前から行なっている移送サービスで、対象は車イス利用者。おもに老人ホームの利用や通院などに使われています。大賀郷から大賀郷のように同地区では片道400円(往復600円)、異地区では片道600円(往復900円)となっています。通院やショートステイに年間2000回以上と、年々利用が増え、最近では特別な支援が必要な児童の学校通学にも利用され喜ばれました。

**求められる多様なサービス** 高齢者の生活を支えるには、日常生活を支える交通手段も必要です。町営バスは、低料金で利用できる利点はあるものの、家から停留所と停留所から目的地まで距離があることや待ち時間が長いなど、使いにくい面があります。私はタクシー料金を補助するなどの公的支援で福祉タクシーを実現させ



★前頁からの続く

るべきだと考えています。また、他の自治体の例を参考にしながら、ゴミを集積所に出すことが難しい方を対象に、玄関先までゴミを収集に行くサービスも取り入れたいものです。八丈でも、買い物をしたあと、家まで送ってくれるサービスを提供しているスーパーや、電話で注文して品物を届けてくれる店もあります。今後急速に進む高齢化にあわせて、町が民間と連携してきめ細かなサービスを提供できるよう訴えていきたいと思っています。

## 定例議会から

**滞納問題** 3月定例議会は、町長の施政方針に基づいて編成された予算案に対する審議が中心になりました。今年度から、汚泥再生処理センター、庁舎、管理型最終処分場、保育園の建設が次々と計画されていますが、自己財源が乏しい八丈町では、基金のとりにくしや起債（借金）でやりくりしている状態です。今議会で特に議論になったのが滞納問題。未収金の処理や滞納者への対応は予算執行にかかわる重要な問題なので、実効性のある対策をとるよう、町に対して強い要望が出されました。今後、町は厳しい姿勢で対応することになりました。

**特別委員会の設置** 病院、水道、バスの企業3会計はこのまま看過できない経営状況となっています。なかでもバス事業は、赤字が年々膨れあがり、事実上経営破たん状態で、これ以上放置することは許されません。そこで議会は、議員提案で「一般旅客自動車運送事業検討特別委員会」の設置を決議しました。委員会はベテラン議員で構成され、議会の立場から経営のありかたをはじめ、抜本的な経営改善の具体策を検討することになりました。

ふれ  
いく  
たい  
む

マイ  
ポ  
ット

直飲み一人用ポットが流行っているようです。飲み物が熱い（冷たい）ままで数時間持ちます。私も時々使っていますが、最近のものは、軽量化され水洗いできるなど工夫され、価格もずい分安くなっています。一方、ペットボトル（=PET）は依然として人気で、お茶や水が結構な値段で売られています。PETは八丈町でも資源ゴミとして回収されていますが、リサイクルにかかる費用は膨大です。消費が増える夏に向かって、マイポットが流行ってPETを買う人が減ってほしいな、と思うこの頃です。

## 編集後記

総額2兆円ともいわれる定額給付金。いち早く現金給付を実現した自治体があったため、3月議会ではなぜ現金支給ができないのか、また一日も早く給付すべきだなど、多くの議員が町を問いました。それが功を奏したのか、4月に申請書が届けられ、現在9割近くの家帯が申請を済ませているとのこと。ただ、景気対策として有効なのかどうかは、疑問の残るところです（私は派遣村にカンパしました）。

さちこのニューズレター  
第二十六号 / 二〇〇九年六月  
編集・発行 奥山幸子  
イラスト 奥山幸子



## 2009年3月議会 一般質問

<http://www7.ocn.ne.jp/~sachiko8/okuyama/>



### 1. 介護報酬が上がることで、介護の現場はどのように改善されるのか

4月から介護報酬が3%引き上げられます。これを機会に、介護事業の運営が安定し、介護職員の労働環境が改善され、利用者が安心して質の高い介護を受けられるような対策がとられなければなりません。介護報酬、介護保険料が改定されるなかで、事業者と介護職員と利用者の現状は具体的にどのように改善されるのでしょうか。

**健康課長** 八丈町内における事業者は4事業所ありますが、それぞれが介護職員の報酬を決定すべきものであり、職員の配置状況によっては報酬アップにはつながらないこともありえます。

**幸子** 高齢化福祉を1つの事業、産業と捉えて、あらたな雇用創出のために、ヘルパー養成に力を入れ、資格取得にとどまらずその後の指導にも支援していく考えはありますか。今回の改定により医療との連携や認知症ケアに加算されるので、今の保険で支えきれない部分は、グループホームや、小規模多機能型居宅介護が受け皿になれると考えます。こうした事業をすすめるために、町が補助金を出すなどして支援する考えはありますか。

**健康課長** 今回の介護報酬改定は、介護従事者の人材確保が理由であり、町も平成20年度と21年度でヘルパー2級の養成研修を行い、従事者が不足しないよう努めていきます。町は、グループホームを進めるよりも、当面、老健施設の誘致を考えており現在交渉中であります。

### 2. 直行便3便体制のなかで、町独自の観光振興策を

大島経由便がなくなり、観光産業に及ぼすイメージダウンは免れません。かつての万人キャンペーンのような町独自の施策を打ち出すと同時に、今ある観光資源を整備する必要があると思いますが、町はどう考えますか。

**産業観光課長** 不況の影響で観光客は減少しています。町も誘致に苦勞していますが、最近では物産展の依頼が増えていきますので、その部分に力を入れていきたいと考えています。施設の整備もしながら、「パブリックロードレース」、大井競馬場の「八丈島フリージア賞」、「光るキノコ」などのPRに努めていきたいと思っています。

### 3. 庁舎に併設される集会施設は、固定式の座席の文化ホールに

「文化ホール建設を進める文化団体の会」の要望のなかで、特に強い要望が固定式の座席だと思っています。しかし、町は可動式の多目的ホールにこだわっているようですが、建設コストを抑え、住民の意向を活かすためにも、固定式にすべきだと思っていますが、町の考えを伺います。

**企画財政課長** 集会施設は、文化ホールの機能ももたせつつ、災害時の避難場所、物資の仕分け場所の機能を果たせる施設を考えています。コンサートの時に支障がないよう、音響などを確保した上で、可動式を計画しています。

## ■ 議会報告会

4月の末に、はじめて議会報告会を開きました。議会ごとに、「さちこのニュースレター」で報告しているものの、一方通行だという指摘もあり、住民の方々と直接話し合う機会をもつことは大切だと思ったからです。

3月議会は予算審議が中心となったため、議会で使われた資料をもとに、まず予算の概要と主な新規事業の内容を伝え、つぎに町の負担金や補助金がどのような組織や団体に出されているかについて説明しました。その中で、疑問に思っている点やこれから取り組みたい課題について、議会での議論を交えながら私の考えを述べました。

参加者からは、個々の事業の意義や無駄遣いがあるかどうかについて質問がでました。

また、議会のネット配信や、不法投棄の問題、焼却灰の無毒化への努力、観光イベントの評価と今後の対応など、具体的な疑問や要望も出ました。議員定数や報酬についても話が及び、私は、定数は増やし報酬を減らすべきだとお話しました。参加者は、町政に関心が高く熱心で、自由に意見交換ができ、有意義な時間を過ごせたと思います。

## フリージアキャラバンに参加して

去る3月17～20日、私は初めてフリージアキャラバンに参加しました。恒例のキャラバンですが、フリージアの栽培農家が減少していることや、このイベントで呼べる観光客の数が低迷していることなどから、その費用対効果について疑問視する住民の声も少なくありません。その疑問に応えるためにも直接見聞してみたいと思いました。

**八丈町の医療を支えて** 私たちの班は消防庁、都立広尾病院、大井競馬場、機動隊などを訪ねました。消防庁は、救急ヘリによる患者の搬送を行なっています。消防庁と連携して受け入れ態勢を整えている広尾病院は、伊豆諸島の患者専用約50床のベッドを常時用意しているとのことでした。たらいまわしされることもなく、直接患者を受け入れてくれる病院が確保されていることを、改めてありがたいと思いました。災害時にも頼れる存在になるはずです。このほか、他の班が杏林大学、日本医大、松沢病院など、八丈の医療に関わる機関を訪問しました。フリージアの香りはどこでも大歓迎でした。

**フリージア娘の活躍** 八高生6人とミス八丈島は、この日のために練習して、みな自分で着物を着ました。慣れない着物と履物で、歩く距離も長く、くたくたに疲れているのに笑顔を絶やすことなく立派にその役をつとめてくれました。

**残る疑問** 一方、衆議院議員会館と参議院議員会館や自民党本部も訪問しました。訪ねる基準もはっきりしていないので、八丈町を知ってもらうという目的ならば、他にアピールする方法を考えるべきだと思います。やはり関連の深い機関に限ったほうが効果も上がるし、その分日数も花も少なく済み、経費節減になると思います。議会からの派遣も4年前から3名に減りましたが、さらに減らすべきでしょう。

私はこの毎年のキャラバンに、これまで積極的な意味を見出せなかったのですが、島の医療を支える関係機関との連携の重要性を再認識し、訪問の意義を感じました。また、訪問先の選択などの問題については、今後議会の中で議論していくべきだと思います。

